

深さ二〇センチほどの刻込みがあり、中央に大きな梵字一字が刻まれている。これは柵形と呼ばれ、三つ壇より直線の場所である。古くよりこれに詣る人もあったといわれ、この柵形が三つ壇の碑といわれている。

(話者 柏村英一)

死人沢と面剥沢

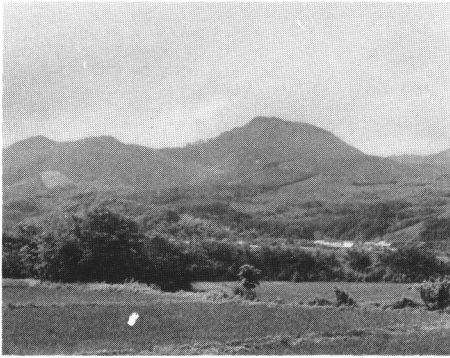
《下江花》

江花高土山地内、小松沢の奥に死人沢という小さな沢がある。その西南下方丘の蔭の小さな沢、これを面剥沢といっている。

昔、久保屋敷に怠け者で性悪く、貧困で人の交際もなく、淋しく暮す農家があった。

ある年の秋、一人の僧(ろくぶ)が托鉢して村を廻り、日が暮れて、一夜の宿をそのよからぬ家に求めた。

その後、村人は僧が村から出て行った姿を見たものがないと噂しあった。そのうちに、火打山の沢に死体があることがわかり、村役人より取片づけを命じられた村の当番たちは



死人沢と面剥沢のある
高土山遠景